

会 議 録

第 1 8 回定例会

開会 平成 2 5 年 2 月 6 日

教育委員会会議録

1 開 会 平成25年2月6日 午後2時00分

2 閉 会 平成25年2月6日 午後4時20分

3 出席委員

委員長	佐藤 紘子
委員	水口 艶子
委員	筒井 直典
委員	西 泰宏
委員	田村 典子
委員(教育長)	佐野 義行

4 出席者

副 教 育 長	原内 司
教 育 次 長	尾崎 好秋
教 育 次 長	高橋 博義
教 育 戦 略 課 長	割石 容
学 校 政 策 課 長	前田 幸宣
学 力 向 上 推 進 室 長	藤井伊佐子
教 育 文 化 政 策 課 長	湯浅 利彦
教 育 総 務 課 長	東端 久和
教 育 総 務 課 副 課 長	藪下 武史

[開 会]

委員長 定例会を開会する旨を告げる。

[議 事]

委員長 議案第54号、協議事項1、を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項1 高校再編計画（案）について》

委員長 報告を求める。

教育戦略課長 再編統合の概要を報告する。

〈質 疑〉

水口委員：教育内容の中に、高度な資格取得を図るとあるが、どのような資格が取得できる教育を考えているのか。

教育戦略課長：「日商簿記検定」「被服製作技術検定」「食物調理技術検定」などを取得できる教育内容を考えている。

水口委員：高度な資格と書かれていれば、看護師・准看護師の資格が取れると勘違いすることもある。

教育長：農業科では、どのような資格が取得できるのか。

教育戦略課長：「バイオ技術者認定試験」「3級技能検定（園芸装飾）」などである。

委員長：校名は、池田高校とするのか。

教育戦略課長：現在そう考えている。

委員長：新高校はそれぞれの学校の教育を引き継ぐ形なのか。

教育戦略課長：商業教育を現在の三好高校から辻校の総合学科で行う以外は、それぞれの学校の教育を引き継ぐこととしている。

委員長：報告事項1を了承する旨を告げる。

《議案第55号 文化財の指定について》

委員長 説明を求める。

教育文化政策課長 提案理由、指定の事由等を説明する。

〈質 疑〉

筒井委員：四国の他県の指定件数と比較して本県の状況はどうか。

教育文化政策課長：種類によって様々である。有形文化財は多くはないが、天然記念物は自然が豊かなこともあり、全国でも中位以上にある。有形文化財は宝を掘り起こし、指定していきたいと考えている。

筒井委員：徳島のもので、県外に流失してしまったものもあるのか。

教育文化政策課長：蜂須賀家の財宝があれば、国宝もあったはずで、残念である。県立博物館、徳島城博物館が収集しているが、全てを集めきれてはいない。

委員長：「杉戸絵」は徳島城博物館が所有していたのか。また、現在も見ることできるのか。

教育文化政策課長：特別展等で公開されている。

委員長：今後も徳島城博物館に置いておくのか。指定されたことで、県立博物館に移るといったことはないのか。

教育文化政策課長：保管場所は変わらない。指定により、公開の機会が増えていくことになると思う。

委員長：まだまだ埋もれている物があると思う。

教育文化政策課長：今後とも地道な調査で掘り起こしをして参りたい。

委員長 議案第55号を原案どおり決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

委員長 議案第55号を原案どおり決定する旨を告げる。

《報告事項2 徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン報告書について》

委員長 報告を求める。

学校政策課長、学力向上推進室長 報告書の概要を報告する。

〈質 疑〉

筒井委員：大変すばらしいプランができてきたと思う。全職員に配付するという話だが、具体的にどのように使っていくかということについては、学校単位で校長先生の判断ということなのか、それとも、一定の指針があるのか。

学力向上推進室長：各学校には学力向上検討委員会を設置しており、検討委員はもちろん、校長会、市町村教育委員会の説明会でもしっかり周知している。各学校は持ち帰ったものを検討委員会はもとより校内研修会で広め

てもらおうということを、パンフレットに校内研修会における共通理解として示し、各教科部会等でも参考にして活動してもらおうことにしている。

教育長：2月4日の戦略会議の最後で佐古委員長から報告を受け取った。そのときに、佐古委員長からこれをしっかり学校に普及してくださいと言われた。また、柿内委員からは、できあがったものをどうやって進めていくかが問題だと指摘された。私の方では、学校マネジメント・学力向上実行プランと教育振興計画について担当課長とともに市町村教育長に直接お願いする運びとなっている。

学力向上推進室長：3月1日の学力向上推進員研修会でしっかりとこのプランの説明を行いたいと考えている。

委員長：各委員さんからは、こうすればいいという案は頂くが、頂いた案を全学校、全教員の指針になっていることができればいいという思いが常々あった。教育長から市町村の教育長に対し、プランのこと、教育振興計画のことについて話をさせていただけるということで、しっかりつなげる部分をつくっていただけることにお礼を申し上げたい。

委員長：公募委員を含め20名の委員の中で、できるだけたくさんの子どもたちに力を付ける、格差をなくすといったことに関する意見はなかったか。

学力向上推進室長：公募委員は保護者の方で、家庭で学習を補うことも大事だから、家で教えている祖父母に指導の方法を教えてもらえないかといった意見があった。家庭と連携しなければ力はつかないと強調されていた。「学びのススメ」では、家庭での復習が大事とか、家庭でもしっかり話をしてくださいといったメッセージも入れて、家庭との連携を示している。

委員長：学校での指導形態の中で、わかるまで指導していく工夫などについては、学校現場の委員からは意見があったか。

学力向上推進室長：いろいろな形態で指導していることや、課題についても個々に習熟状況に応じた課題を出している教員もいるといった意見もあった。

委員長：一番願うことは、平均点も大事だが、取りこぼしがないように一人一人の子どもに力を付けることだと思う。

学力向上推進室長：プランにおいて、学力の3要素の1つめの基礎的基本的な知識・技能の習得というところでは、全ての子どもたちの学力の底上げをするといった視点に沿った指導を行う、そしてそれを発展させた活用に関すること、意欲に関すること、というように、これからは3つの要素に振り分けて学校も視点を定めてプランを立てて実行するような流れにしている。

委員長：継続してやれているかのチェックを、管理職の先生方や市町村教育委員会にお願いしたい。

田村委員：活用する力が弱いのでその力をつけると考えているようだが、学校だけでは多分アップアップしてしまうことになると思う。早く学校から家庭地域へ広げるといったこと、地域との連携を中心に考えていった方がいいのではないか。

学力向上推進室長：学校が描いているビジョンなどが地域に示されていないかということが課題ではないかという意見もあった。そういったことから、プラン、パンフレットには、地域や家庭にいつの段階でどのように情報を提供し共有するかという例を示している。

水口委員：様式について、具体的な用紙の使い方はどうするのか。学校全体で一つなのか。

学力向上推進室長：県教委に提出してもらうのは学校全体で一つだが、学年ごとに書いてもらうなど膨らませて具体的に書いてもらってもいい。

水口委員：子どもたちのよさや課題とか、学年やクラスでは分かりやすいが、学校単位で具体的に示すところにイメージがわきにくく、生きた資料として効果があるのかと思う。

学力向上推進室長：目指す子ども像が、学校独自や地域にはある。その辺りを特に重点化させてもらう。たくさん課題はあるので、年度ごとに重点を絞ってしっかりと取り組んでいくことが大事である。

委員長：県に出てくるのはまとめたものであるが、校長によっては全ての教員にプランを書かせるような使い方をされるかもしれない。

水口委員：県に出てくるのはまとめた形のものでいいと思うが、具体的にはクラス単位や学年単位でつくって、一人一人の先生方に動いていただけたらありがたいと思う。

学力向上推進室長：教育の質を向上させるために、各教科で「児童生徒の様々な考えを引き出したり思考を深めたりする発問をする」ということに取り組もうという指標を出して、教科を限らず取り組もうという例も示している。

水口委員：そういった説明をしっかりとお願いしたい。

教育長：水口委員の御意見はもっともだと思う。一方、各学校には違いがあり、県としてそれを全て書き切ることは不可能であると思う。そのため、できる工夫もしながら、市町村教育委員会、学校単位にお願いするよう、学力向上推進室と論議を始めていきたい。

委員長：学校が目標に向かってどう取り組むかを、学校現場に議論をしてま

とめていただくためのいい形ができていると思う。

委員長： 報告事項 2 を了承する旨を告げる。

[非公開]

《議案第 5 4 号 平成 2 4 年度徳島県藍青賞の後期受賞者について》

《協議事項 1 平成 2 4 年度 2 月補正予算案について》

(非公開につき、議事の内容については省略)

[閉 会]

委員長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午後 4 時 2 0 分